

取扱いの趣旨

抜歯以前に実施された知覚過敏処置は症状を緩解させるための処置であることから、同一診療月で同一歯において、「P」及び「H y s」で知覚過敏処置のみを行い、後日抜歯に至った場合の抜歯前の知覚過敏処置の算定は原則として認められる。

支払基金が公表している取扱いの全文

【処置】

《平成24年8月27日》

22 知覚過敏処置

○ 取扱い

原則として、同一診療月で同一歯において、「P」及び「H y s」病名で知覚過敏処置のみを行い、後日抜歯に至った場合、当該知覚過敏処置の算定を認める。

○ 取扱いを定めた理由

抜歯に至ったとしても、それ以前に実施された知覚過敏処置は症状を緩解させるための処置であることから、歯科医学的にはあり得るものと考えられる。

グラフの見方

1 棒グラフ（該当レセプトの審査結果）

知覚過敏処置を算定しているレセプト1万件当たり、条件（PかつH y sに対して知覚過敏処置の翌日以降に抜歯手術を算定）に該当するレセプト件数

2 折れ線グラフ

該当レセプトのうち、知覚過敏処置が査定・
返戻となった割合

【棒グラフ凡例】 審査の結果

請求どおり	: 取扱いどおり
査定 審査委員	査定 職員契機
返戻	: 検証が必要

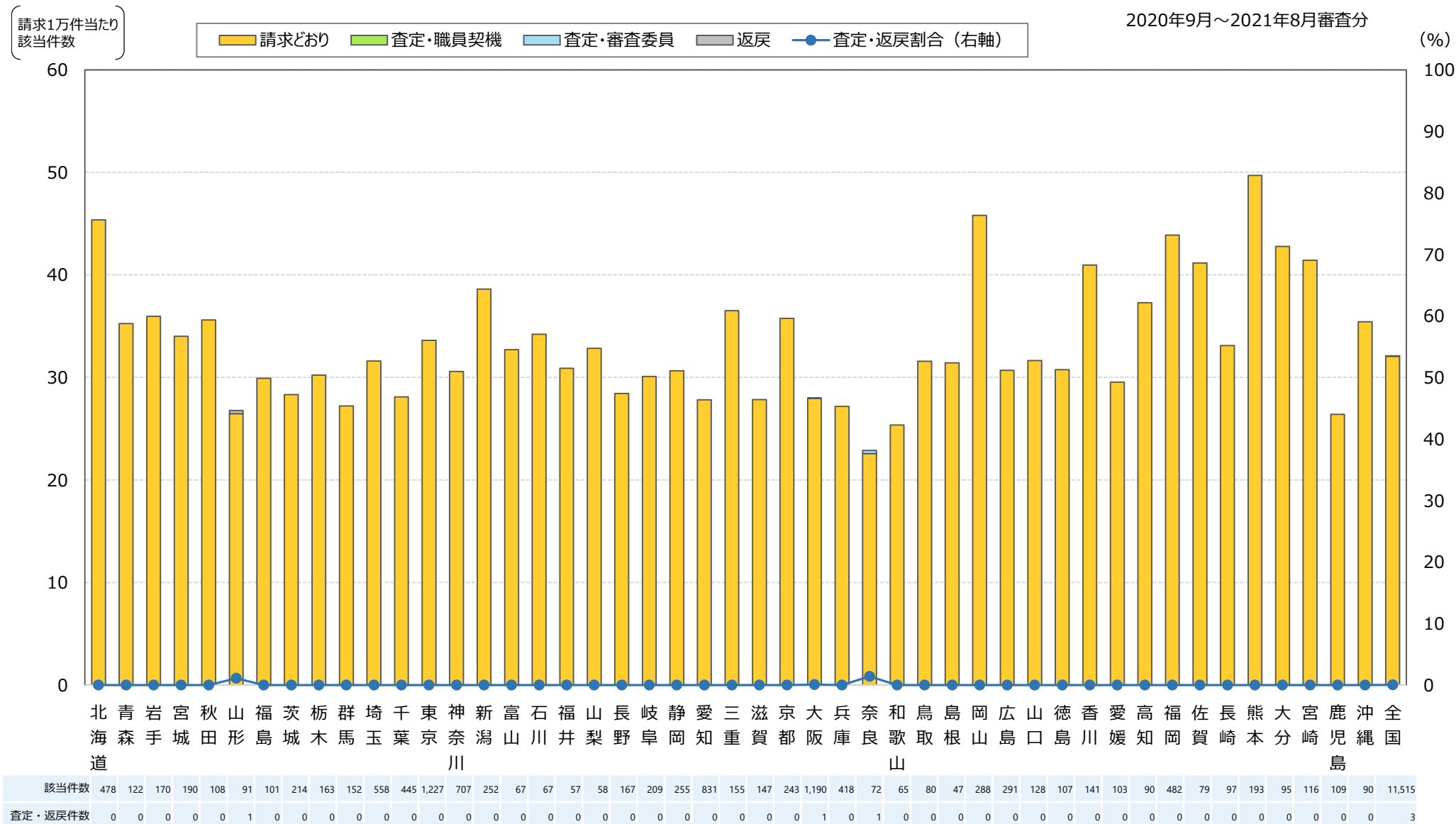
審査結果の概要

- 全国の査定・返戻割合 0.03%
- 検証を必要とする支部 3支部

検証観点	特に検証を要する支部	備考
査定・返戻割合が高い支部	奈良、山形、大阪	査定・返戻割合の高い順
査定・職員契機	—	
査定・審査委員	奈良、大阪	対象1万件当たり査定件数の多い順
返戻	山形	対象1万件当たり返戻件数の多い順
該当件数（全国）	PかつH y sに対して知覚過敏処置の翌日以降に抜歯手術を算定	11,515件
取扱いに基づく審査	請求どおり	11,512件
検証を必要とする審査	査定・返戻の計	3件

事例22 「P」及び「H y s」に対する抜歯前の知覚過敏処置の取扱い

【認める事例】



【該当件数】 PかつH y sに対して知覚過敏処置の翌日以降に抜歯手術を算定しているレセプト件数